

無電化の地域に届けられた、小さな“あかり”。 それは、子どもたちの未来を照らしていた。

カンボジアの首都プノンペンから車で約3時間、いまま電気の使えない世帯が多く残るコードンタイ村。ソーラーランタンの“あかり”の下で、子どもたちは勉強に励み、識字率や就学状況が改善している。

電気のない家庭に“あかり”を。

電力インフラのない無電化地域でくらす人は、世界に約11億人。そこでは“あかり”がないために、教育、医療、貧困、安全などさまざまな社会課題が存在します。パナソニックは2013年から、これらの地域のよりよい暮らしのために、太陽光で発電・充電する自社製品の「ソーラーランタン」を10万台以上寄贈してきました。

誰ひとり、取り残さない未来へ。

そして昨年からは、「みんなで“AKARI”アクション」をスタート。企業の枠を超え、社員や一般の方からクラウドファンディングや古本の寄付を募り、多くの「ソーラーランタン」を寄贈しています。創業以来、ひとつでも多くの家庭に“あかり”を届ける努力をしてきたパナソニック。企業市民としても、その努力を続けていきます。



2017年の寄贈以来、生活の質が向上した



昼に太陽光で充電し、夜を照らす

「みんなで“AKARI”アクション」WEBサイトはこちら▶



持続可能な社会と暮らしへ

パナソニックの企業市民活動



夜に調理したお菓子を朝販売し、世帯収入が向上



家畜の盗難防止で見回りするときには欠かせない



日中は集まらない村人たちがあかりの下、課題を話し合う